

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
本校の児童は、意欲的に歌ったり、演奏したりすることができる児童が多く、楽しみながら学習に取り組むことができる。また、共通事項の習得も、適宜取り入れることで、少しずつ定着してきた。	習得した共通事項を、自分たちの演奏に取り入れるという活用の部分に課題を感じる。また、グループ活動を行う際に、受け身の姿勢で参加している児童がいるので、全員が主体的に活動することができるように授業展開を計画する。

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	大きな声で歌を歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりすることを好んで行う児童が多い。鍵盤に不慣れな児童がいる。	真似っこ遊びなど、鍵盤で楽しく遊びながら、拍の流れによってタンギングする活動を取り入れていく。
2年生	声を合わせて合唱したり、みんなで合奏したりすることを楽しんで行うことができている。鍵盤ハーモニカの技能には差があり、全体でリズムやテンポを合わせるのが難しい児童もいる。	少人数で合わせたり、聞きあいながら、自分以外のパートの出す音を鑑賞できるように指導していく。
3年生	歌うことやリコーダーを演奏することにとっても意欲があり、楽しんで活動することができる。音階の感覚や、読譜力に課題を感じる。	歌唱やリコーダー演奏の際に、階名唱を適宜取り入れることで、常に音階を意識して活動させる。音階の指導をさらに丁寧に行っていく。
4年生	児童が課題を解決していく際のグループ活動の取り組み方に課題を感じる。スムーズに活動に入ることができない時がある。	めあてを明確にし、児童が意欲的に活動に取り組むことができる課題を設定する。 他のグループの例を紹介する等して、グループ活動の取り組み方を習得していく。
5年生	グループ活動やパートの練習では、友達と関わり合いながら、意欲的に取り組むことができる。課題解決に向けてのプロセスを工夫して、活動を進めることに課題を感じる。	自分たちで考えて課題を進めていくようなグループ活動を意図的に取り入れる。児童が主体となって思考錯誤しながら取り組むことで、活動を通して自ら課題解決の方法を習得することができるように、授業展開の方法を工夫する。
6年生	器楽演奏の技能が高く、意欲的に活動することができる。一方グループ活動では、特定の友達と関わるが多く、より多くの友達と意見を交わしながら活動を進めることに課題を感じる。	グループの構成を工夫して、より多くの友達と関わるようにする。また、グループ編成を短期間で意図的に変更しながら進めることで、自然に誰とでも関わり合うことができる雰囲気づくりを行う。

●学校全体で取り組む内容

それぞれの学年での学習だけではなく、次の学年での学習内容も見通して指導を行う。読譜の力や音程の捉え方については、低学年から少しずつ習得させステップアップしていく。共通事項については、それぞれの楽曲ごとに扱う項目を決めて適宜学習していくことで児童に定着させる。
